



FIM 世界耐久ロードレース選手権 結果報告

- 参戦レース：世界耐久選手権第5戦 鈴鹿8時間耐久ロードレース
- サーキット：鈴鹿サーキット / 日本
- 開催日：2017年7月30日
- チーム名：EVA RT 初号機 Webike TRICK STAR
- ライダー：エルワン・ニゴン / 井筒 仁康 / グレゴリー・ルブラン
- 監督：鶴田竜二
- 結果：予選 21位 決勝 14位
- EWC ランキング：10位



世界選手権 (EWC) 第5戦 (最終戦) 鈴鹿8時間耐久レースが三重県鈴鹿サーキットで行われます。

鈴鹿8耐は40回目の記念の大会でもあり、EVA RT Webike TRICKSTAR にとっては、母国のレースであり EWC 最終戦という特別のレースになります。

今期最高の結果を残すためにエルワン・ニゴン / グレゴリー・ルブラン / 井筒 仁康のラインナップで挑みます。

フリープラクティスを終え、ブルー、イエロー、レッドライダーがそれぞれの20分2回の公式予選が行われました。ブルーライダー / ニゴンのベストタイムが2分10秒572、レッドライダー / ルブランが2分10秒882、イエローライダーの井筒が2分12秒518となり、3人のライダーの平均タイムが2分11秒324で、予選21番手となりました。

ナイトプラクティスでは井筒が転倒してしまい、ケガはありませんでしたが、マシンが大破し、メカニックたちはマシン修復に追われることになりました。想像以上に厳しい戦いとなりましたが、EWCを戦い抜いた力を武器に EVA RT Webike TRICKSTAR は上位進出を狙います。

エルワン・ニゴン コメント

予選は、はっきり言ってとても難しいものでした。予選のコンディションでのグリップのなさも驚くほどで大変で、正直もっと上を目指したかったが、残念ながらそれは成功しませんでした。レースの目標は、10位以上で帰ってくることです。実際このパッケージでの現実的な目標はそのあたりだと感じます。



私達ライダーはメンタル的にはとても良いと思うし、自信をもって挑みたいです。

グレゴリーとは、2015年に1度同じチームで走ったことがあります。実質一緒にチームを組んで走るのは初めてのようですが上手くいっています。井筒選手もいつも通りとても優しくて、彼の前では正直でいられます。



グレゴリー・ルブラン コメント

鈴鹿8時間耐久はとても有名なレースで、毎年参戦を楽しみにしています。今年はトリックスターで走れることになって嬉しく思っています。

チームのことは理解しているし、とてもいいチームです。もう決勝レースですが少しでも良くなるようにチームが解決してくれると思っています。エルワンとは15年前から知っていて、2015年には一緒に世界GPも走っていました。お互いを知り尽くしているので、チームメイトとしては問題ありません。井筒さんは、肩を痛めていて、本来の走りが出来ていませんが、素晴らしいキャリアがあり、きっとチームを助けてくれると信じています。今は全力を出して決勝に挑むだけです。

井筒 仁康 コメント

鈴鹿 8 耐は特別なレースで、日本のチームは全日本を戦い、テストを重ねてマシンを鈴鹿 8 耐にピンポイントで仕上げて 8 耐を戦いますが、トリックスターは EWC を戦ってきたために、その準備はできていない。マシンのベースが違う。僕たちは EWC のチームとしての参戦です。



マシンに合わせてのライディングが求められます。現状でベストを尽くすだけです。

鶴田 竜二 監督 コメント

鈴鹿 8 耐は EWC とはまた違った独特の緊張感があります。昨年からタイヤ本数制限があり、どこでそのタイヤを使うかも重要なのですが、今年から 17 インチに変わったことで、タイヤのデータがなく、昨年のタイムも超えることが出来ないという苦しい展開になっています。

それでも、EWC を戦ったことでの手応えは感じています。決勝でその力を出したいと思います。悔いのない戦いを誓います。

決勝

世界耐久選手権（EWC）第 5 戦（最終戦）鈴鹿 8 時間耐久レース決勝が三重県鈴鹿サーキットで行われました。

EVA RT Webike TRICKSTAR は 21 番グリッドからスタートしました。

鶴田監督は、エルワン・ニゴンとグレゴリー・ルブランの 2 人体制で挑むことを選択します。



どんよりとした黒い雲が立ち込める空模様の中、11 時 30 分に、ルマン式スタートが切られ、ニゴンがスタートライダーを務め、21 番グリッドからスタートを切ります。

世界を戦ってきたエルワンは抜群のスタートを決め 1 周目を 14 位と大きくジャンプアップして戻ってきました。しかし序盤には西コースで雨が落ち、転倒車が出るなど、波乱の展開となります。

雨は上がりますが、転倒車が出たことなどで、2 度のセーフティカーが入る波乱のレースとなりました。エルワンは、慎重に周回を重ね、確実にポジションを上げ、18 番手でグレゴリーへライダー交代。

2 ステイント目はピットワークも上手いきエルワンからグレゴリーへ交代。

グレゴリーも必死に前を追いかけて 18 位まで下げた順位を 16 位に上げエルワンへ交代する為にピットイン。ピットワークもガソリン給油がやや手間取るも、ほぼ問題なく作業を終えコースへ送り出す。

本来なら井筒選手が走行するはずだったが、金曜日のナイトセッションで転倒し負傷した為、エルワン選手とグレゴリーの 2 人でレースを走り切る事作戦に変更。

エルワンがコースインし必死で追い上げるもなかなかペースが上げられる状況になく我慢の走行となった。74 周目に遂にポジションを 15 位にあげ 78 周を終えピットに戻ってきた。

グレゴリーもエルワン同様本来のスピードが活かせず我慢のレース運びとなった。じっくりラップタイムを刻み 97 周目に 14 位に順位を上げる。104 周を終えピットに戻るグレゴリー。順調にピットワークをこなしてエルワンへ交代する。ピットストップのタイミングで多少順位が変わるが懸命の走りとはピットワークで 12 位争いに加わっていった。119 周目に 13 位へ順位を上げるエルワン。その後も一進一退の 12 位争いが繰り広げられる。130 周目に 13 位をキープしてピットに戻るエルワン。

その後グレゴリーに変わり必死に追い上げ 140 周目に遂に 12 位へ順位を上げてホームストレートへ帰ってきた。しかしなかなか後続を引き離す事が出来ず 12 位争いが激化する。

エルワンへ 156 周で交代。

交代直後 13 位に順位を落としてしまう。必死で前を追いかけるエルワン。ペースを落とさず確実にミスをしないうでラップを刻んだ結果 175 周目に 12 位に順位を戻した。しかしピットインのタイミングで 13 位に順位を下げる。いよいよ最終スティントとなる 183 周でグレゴリーに交代しピットアウト。ピットワークもほぼノーミスで完了した。

グレゴリーに交代し 13 位で走行を続けたが 192 周目に 14 位に順位を落とす。

その直後ペースカーが介入し前車との差はなくなった。

ペースカーが解除され追い上げようと必死に走行するも順位を上げる事が出来ず。

午後 7 時 30 分を経過しそのまま 209 周の 14 位でゴールとなった。



エルワン・ニゴン コメント

鈴鹿サーキットは私にとって大好きで得意なコースです。

EWC 最終戦として私のモチベーションはフル MAX でした。

しかしコンディションとチームのパッケージが上手くマッチせずラップタイムが上げられず 14 位と言う結果になってしまいました。

悔しい結果だがベストは尽くした結果なので仕方ありません。

日本のチームで世界耐久選手権シリーズフル参戦をして素晴らしい経験が出来た。

またこのチームでチャレンジする事を望んでいます。

多くのサポーターの皆さん、どうもありがとうございました。



グレゴリー・ルブラン コメント

急遽出口選手の代役で参戦することとなった。

2014 年以来 3 年ぶりにこのチームで鈴鹿サーキットを走る事が出来とても嬉しかった。

前回よりもまた更に多くのサポーターに応援してもらいとても心強く嬉しかったです。レースの結果はベストをエルワンと共に尽くしたが今ひとつだった。

しかしこのチームのポテンシャルはこんなものではないと思っている。

次回チャンスがあればまたチャレンジしたい。



井筒 仁康 コメント

昨年、全日本選手権最終戦での怪我が完治はしていませんでしたが、自分に出来る事を精一杯やろうと思いいレースウィークに挑みました。

決勝では走行する出番は無かったのですが、路面コンディションの変化やライダーの体調変化に備え、いつでも走れる準備をしつつ走行後のライダーケアのお手伝いをしていました。

昨年までは鈴鹿 8 耐に向けてマシンを作り参戦していましたが、今年は EWC 世界耐久選手権にフル参戦しながら鈴鹿に帰って来ました。1 年間フル参戦する事によってメカニック達が成長した事を実感しました。逆にフル参戦する事で足りなくなった物も見えました。

改めて世界耐久選手権にフル参戦しながら鈴鹿 8 時間耐久に挑む事の難しさを痛感しました。

決勝 14 位と言う結果に満足していませんが、ライダー・メカニック・スタッフが精一杯やった結果が 14 位だった事を受け止め、何が足りないかを考え次に繋げて行きたいと思います

鶴田監督 コメント

ラインナップはチームメカニックとも相談をしてふたり体制としました。井筒選手のオフシーズンで負った肩のケガの回復具合などを考慮しました。ですが、路面がウェットの場合は、井筒の速さは他を圧倒するものなので、その場合は走ってもらうと言う事で、ライダーたちに納得してもらいました。

ニゴンとルブランは24時間耐久を何度も走り、その中で連続走行を難なくこなすタフなふたりなので、ふたり体制となったとしても戦闘力は変わらないと判断しました。アベレージにしても同じようなペースで走ることが出来ます。

EWCを戦って来た力を示したい、成長した姿を見せたいと挑みました。スポンサーやファンの方が、鈴鹿サーキットまで足を運んで声援を届けてくれました。その応援に応えたいとスタッフ丸となって鈴鹿8耐を戦いました。その結果としての14位は、悔しいですし、納得できるものではありませんが、それでも大きなトラブルもなく、ミスもなく走り切ることが出来ました。

いいところをお見せできませんでしたが、また、新たなチャンレンジのために準備して行きます。

EWCフル参戦の挑戦を応援して頂けたことに深く感謝しています。ありがとうございました。

